

1 学習課題を見いだすための手立て

自分の学習課題を見付けるための教師の支援、指導の工夫

○スモールステップを意識した技や練習の場の例示 ○ICT の活用

一つの技としての「できた」「できない」ではなく、技を細分化して児童に提示することで、「できる」を増やしていけるようにした。また、ICT(スナップショット機能)を活用することで、自己の動きを自分で確認できるようにした。そうすることで、現状を把握できるようにし、自分に合った学習課題を見いだせるようにした。

2 粘り強く解決できるようにするための手立て

主体的に運動に取り組むための学習過程の工夫

○振り返りを生かした学習サイクル ○ICT の活用

振り返りを行う際、学習課題に対しての振り返りが次時の学習課題に反映されるようにした。学習課題を意識して取り組む学習の活動を繰り返すことで、解決できたときの達成感を味わわせ、次への意欲を喚起できるようにした。また、ICT を活用することで、自身の動きを見ながら練習に取り組めるようにした。



スモールステップの設定

スモールステップを意識した技や練習の場の提示

易しい技から取り組ませることで、自分の現状を把握できるようにする。こうした時間を準備運動や授業の前半に組み込むなどして、授業の中で積み重ねていく。毎時間、新しい技に取り組むだけでなく、自分でもできそうだと感じられることもねらった。

各々の技のポイントを段階的に提示することで、児童の「できる」という実感を積み重ねていけるようにした。また、振り返りでも、学習カードを見ながら選択した技のポイントを記入させることで、次時に自分が行う技について何を意識して取り組むのかをはっきりさせ、適切なめあてをもって練習に取り組めることをねらうようにした。

回転が止まってしまうから、坂道で練習しよう。

学習資料や環境の工夫

ICT の活用(スナップショット機能)

技に取り組んでいる動きを自分自身で見るとは難しい。そこで、タブレットを活用し数秒遅れて動画を見る機能を利用することで、自分の学習課題を達成できているか、次によりよくしたいポイントはどこかを自分で把握できたり、友達とのかかわりの中で技のでき具合を伝えたりできるようにした。これにより、自分の現状を把握できるようになることをねらいとしている。



開脚前転では、足を開くタイミングをもう少しおくらせるといいかも！



学習過程の工夫

振り返りを生かした学習サイクル

本時の振り返りの時間に、学習課題が達成できたかどうか、さらにどうするとよりよい動きにつながるかを振り返ることによって、それらが次時の学習課題に反映できるようにした。こうした学習の流れを繰り返すことで、「練習を続けていけばできそうな気がする。」というように、児童が練習を続けたいという気持ちを高められるようにした。すると、自分から練習ができるようになり、いつかある先の「できた」の礎をつくることをねらいとしている。



今日は〇〇までできたから、次回は△△ができるように□□の練習しよう！

◎成果と△課題 <講師 世田谷区立用賀小学校長 青鹿 和裕先生>

◎ICT を活用することで、学習課題の達成に向けて主体的に学習することができた。

△自己の学習課題を決めることを前時にしていたが、本時にも自分の学習課題を確認する時間が必要だった。

△タブレットの活用は、入力に時間がかかるため、振り返りの流れを大事にしつつ、経験を積ませることが必要であった。